

(別紙様式)

平成 28 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
 産学官連携フュージビリティ・スタディ
 共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名: 北極圏における開発と環境をめぐる言説分析:ロシアを中心に

研究期間: 平成 28 年度～平成 年度

共同研究員	氏名	所属・職名
研究代表者	徳永昌弘	関西大学商学部・教授
研究分担者(拠点外)	アルバハン・マゴメドフ	ロシア国立ウリヤノフスク大学北極センター・教授
研究分担者(拠点内)	田畑伸一郎	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授

【研究の内容】

本研究は、ロシアを中心に北極域における開発と環境をめぐる言説分析を行おうとするものである。最大の北極海沿岸国であるロシアでは、石油・天然ガスをはじめとする資源開発や北極海航路の利用拡大に対する内外の期待が高まっている一方で、国内の極北地域では経済開発に起因する環境面の変化がすでに現れており、現地の社会生活に少なからぬ影響を及ぼしていることが判明している。この点を踏まえて、本研究ではロシアで北極開発に従事している企業・団体の関係者ならびに北極研究の専門家に対するインタビュー調査を実施すると同時に、ロシア語メディアデータベース(integrum)を活用して、北極域に関するロシアの開発・環境言説の分析を定性・定量の両面で行った。

その結果、ロシアの国益を前面に押し出したナショナリスティックな開発・環境言説は全体として見れば少数派で、プーチン大統領を筆頭にロシアの有力者が説く主流派の言説は、北極域のエネルギー資源開発は厳格な環境政策と調和して進めるべきと考える西欧流のエコロジー近代化的な見解に近いことが判明した。気候変動対策でも環境政策全般でも、ロシアと欧州の実績には大きな差が見られる一方で、いかなる政策上の変化も、それに適応した言説の転換を伴うはずであり、この点でロシアは欧州的な環境言説に向かっているようである。ロシアの国内外で流布されている昨今の環境言説全般は 10 年前と大きく異なる。ロシアの北極開発と環境政策を論じる際には、こうした言説上の変化もしくは修正を認識する必要がある。

他方で、主にロシアの実業界で活躍する人々の一部は、世界の主要国で主流となりつつある環境言説とはかけ離れた思考をしばしば表明している。換言すれば、経済が環境に深く包含されるという明確なビジョンを示しておらず、西欧流のエコロジー近代化的な思惟からの一定の乖離を示している。さらに、以上の環境言説の変容の裏で、どのような事態が進行しているかを注視すると、2012 年から行われている「北方清掃」プロジェクトに象徴されるように、北極域をめぐるロシアの環境政策は当地の軍事安全保障問題と密接に関連している。このようなかたちで、ロシアの北極域におけるエコロジー近代化的な言説の推進は、欧州で規範化され、膺炙した本来の概念から乖離し、ロシア独自

の開発と環境をめぐる文脈に深く取り込まれているという意味で、特異な進化を遂げていると言える。

【研究論文や著書等】

- 1)徳永昌弘. 2017. 「北極開発とロシア:開発と環境をめぐる言説分析」. 立命館大学経済学会『立命館経済学』第 65 巻第 5 号:192(934)-207(949)頁. (査読無)
- 2)徳永昌弘. 2017. 「経済開発と公害・環境問題」. 松戸清裕編『ロシア革命とソ連の世紀:冷戦と平和共存(第 3 巻)』岩波書店:61-85 頁. (査読有)
- 3)Masahiro Tokunaga. 2017. “Russian Arctic Development and Environmental Discourse”. Veli-Pekka Tynkkynen et. al (eds.), *Russia’s Far North: The Contested Energy Frontier*, Routledge: forthcoming. (査読有)

【研究発表】

- 1)徳永昌弘. 2016. 「北極開発とロシア:『恵み』か、それとも『呪い』か」公開講演会「激動のグローバル世界に挑む」, 2016 年 12 月 21 日, 筑波大学, つくば市.
- 2)Masahiro Tokunaga. 2017. “Russian Arctic Development and Environmental Discourse”. Arctic Seminar “The Geostrategic Transformation of the Arctic in an Age of Growing Uncertainty”, 17 February 2017, Osaka University, Suita.
- 3)Masahiro Tokunaga. 2017. “Russian Arctic Development and Environmental Discourse”. International Conference on “Social Issues and Economic Institutions in Russia”, 9 March 2017, Kyoto University, Kyoto.
- 4)徳永昌弘. 2017. 「北極開発とロシア:開発と環境をめぐる言説分析」北極域研究共同推進拠点公募事業(平成 28 年度共同推進研究)研究会「北極開発の論理と倫理」, 2017 年 3 月 28 日, 北海道大学, 札幌市.

【特許等】

特になし

【アウトリーチ、取材、その他】

特になし